2025年度の主な取組

■ 市町村域水道事業(18水道事業)

水道水の安定供給を持続していくため、老朽化が進む水道施設の計画的な更新・耐震化に取り組んでいます。

重要施設配水管路の目標設定について教えて！

2024年１月に発生した能登半島地震で上下水道施設に甚大な被害が生じ、復旧が長期化したことを踏まえ、国土交通省から全国の水道事業者や下水道管理者に対し、重要施設※に接続する上下水道管路等の耐震化を推進するための「上下水道耐震化計画」を2025年１月までに策定するよう要請がありました。

この計画策定に当たり、企業団と統合元団体で協議を行い、対象施設となる重要施設の見直し(地域防災計画とも整合)を行うなど、これらに接続する重要施設配水管路の耐震管率の目標値(2029年度)を設定しました(これにより一部の水道事業で従来の目標値から変更が生じています。)。

本アニュアルレポートにおいては、昨年度に引き続き、「上下水道耐震化計画」の目標値に対し実績の推移を報告します。

※ 災害時においても給水の重要性が高い医療機関、避難場所、福祉施設、防災拠点等の施設。なお、「上下水道耐震化計画」に合わせて「重要給水施設管路」を「重要施設配水管路」に変更しています。

企業団と水道事業を統合した市町村

- **2017年４月から**企業団が水道事業を開始
  四條畷市・太子町・千早赤阪村
- **2019年４月から**企業団が水道事業を開始
  泉南市・阪南市・豊能町※・忠岡町・田尻町・岬町
- **2021年４月から**企業団が水道事業を開始
  藤井寺市・大阪狭山市・熊取町・河南町
- **2024年４月から**企業団が水道事業を開始
  能勢町※
- **2025年４月から**企業団が水道事業を開始
  岸和田市・八尾市・富田林市・柏原市・高石市

13水道事業
(14市町村の水道事業)

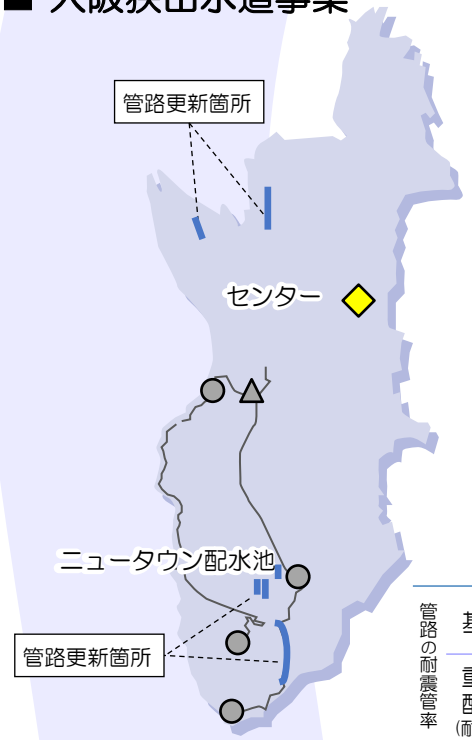
※ 豊能町域と能勢町域の水道事業は、2024年４月に統合し、豊能地域水道事業として運営を開始

18水道事業
(19市町村の水道事業)

５水道事業
(５市の水道事業)

2025年度の主な取組

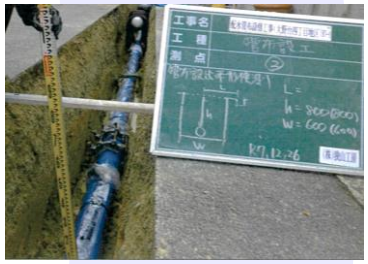
■ 大阪狭山水道事業



【凡例】
- 水道センター
- 浄水施設
- 配水池
- ポンプ場
- 主要な既設管路
- 2025年度整備箇所

		基準年度実績（2021年度）	2024年度実績	2025年度実績	目　標（2029年度）
管路の耐震管率	基幹管路	31%	41%	45%	52%
	重要施設配水管路（耐震適合率）	－	31%（65%）	31%（66%）	43%（79%）

2025年度の執行額は3.8億円で、主な事業は次のとおりです。



管路の更新・耐震化

■ 配水管布設替工事(大野台四丁目地区)
更新時期を迎えた管路の更新・耐震化を実施しています。

2025年度執行額　84百万円

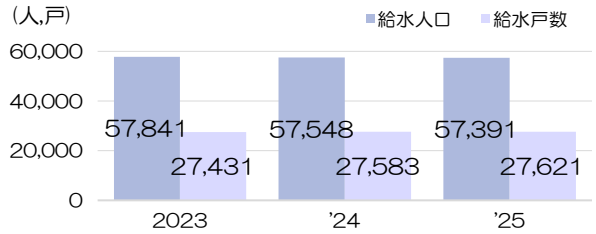
その他の取組

■ 受水池兼低区配水池の水位計取替工事を実施しました。

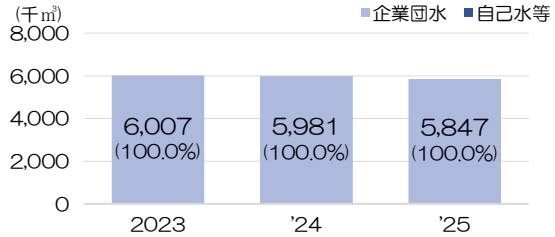
■ 大阪狭山水道事業

給水人口や給水量の推移

給水人口・戸数



企業団水と自己水等の割合



2025年度末の給水人口は57,391人で、前年度と比べて157人(0.3%)減少しています。

また、給水戸数は27,621戸で38戸(0.1%)増加しています。

給水量は5,847千㎥で、前年度と比べて134千㎥(2.2%)減少しています。なお、給水量のうち企業団水の占める割合は100%です。

財政収支

(単位：百万円、税抜)

収益的収支	2024決算(a)	'25決算(b)	差引(b)-(a)
収　益	**1,175**	**1,136**	**△ 39**
給水収益	959	929	△ 30
長期前受金戻入	123	121	△ 3
その他収入	93	86	△ 6
特別利益	0	0	△ 0
費　用	**1,110**	**1,125**	**15**
維持管理費	830	828	△ 2
減価償却費等	261	265	4
支払利息	19	18	△ 1
特別損失	0	14	14
単年度損益	**65**	**11**	**△ 54**

(単位：百万円、税込)

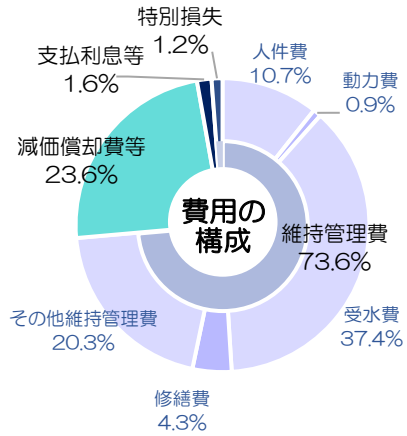
資本的収支	2024決算(a)	'25決算(b)	差引(b)-(a)
収　入	**151**	**213**	**62**
企業債	—	—	—
国庫補助金等	105	111	6
その他収入	46	103	57
支　出	**550**	**492**	**△ 58**
建設改良費	464	401	△ 63
企業債償還金	86	91	5
その他支出	—	—	—
収支の差額	**△ 399**	**△ 278**	**121**

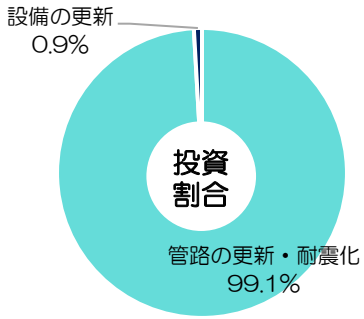
＊収支の差額については、積立金等で補てん

収益は、大口使用者の移転による給水収益の減や、その他収入の減などにより、前年度と比べると39百万円減少しました。

費用は、減価償却費等が増加したことや、未収金台帳の修正に伴う特別損失を計上したことなどにより、前年度と比べると15百万円増加しました。

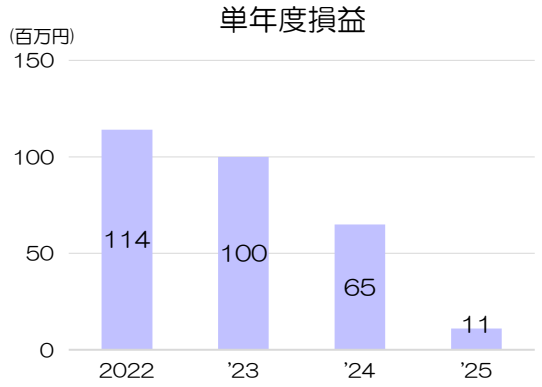
これらの結果、単年度利益は前年度に比べ54百万円減少し、11百万円となりました。

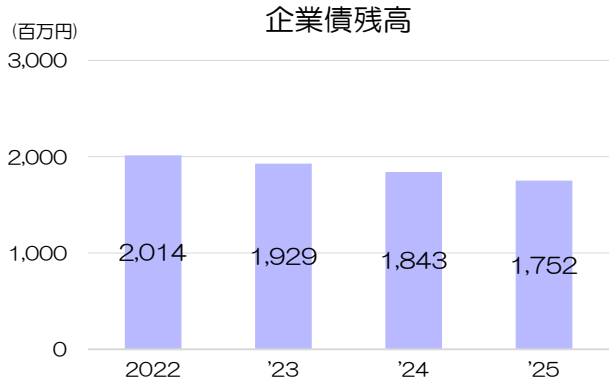


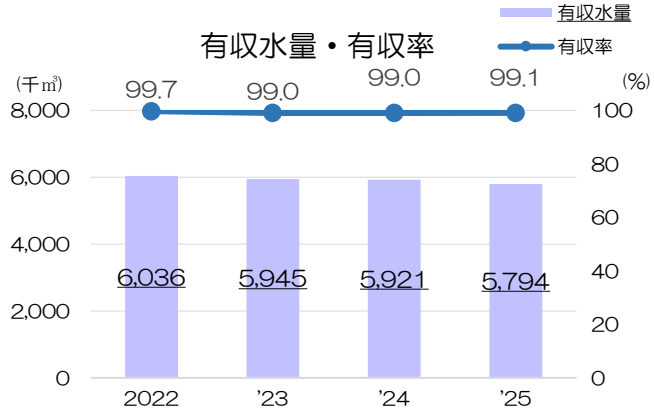


※ 投資割合は建設改良費の内訳のことです。

財政収支の推移

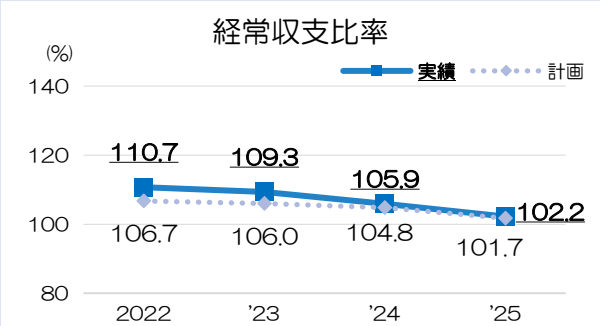






主な経営指標の状況

○：計画を達成　△：計画を概ね達成(計画値との乖離が５%未満)　×：計画を未達成



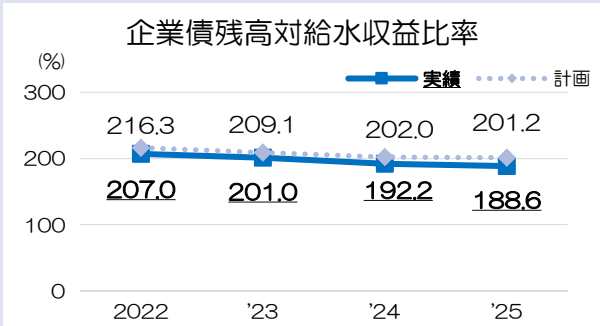
達成状況	2021	'22	'23	'24	'25
	―	○	○	○	○

〈算出式〉経常収益／経常費用×100

（給水収益や繰入金等の収益で、維持管理費や支払利息等の費用をどの程度賄えているかを表し、100%以上となっていることが必要です。）

2025年度の実績は、計画を達成しました。なお、前年度と比べると、給水収益が減少したことから、3.7ポイント減少しています。

【参考:2024年度類似団体平均値107.6 %】



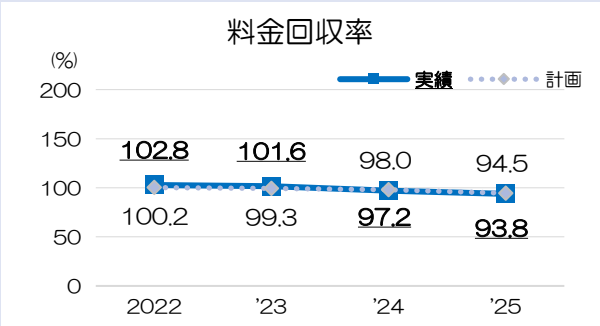
達成状況	2021	'22	'23	'24	'25
	―	○	○	○	○

〈算出式〉企業債現在高合計／給水収益×100

（給水収益に対する企業債の割合であり、企業債残高の規模を表します。明確な数値基準はなく、経年比較や類似団体比較等により適正な数値となっているかをみる指標です。）

2025年度の実績は、計画を達成しました。また、前年度と比べ、企業債残高が減少したことから、3.6ポイント減少しています。

【参考:2024年度類似団体平均値300.5%】



達成状況	2021	'22	'23	'24	'25
	―	○	○	△	△

〈算出式〉供給単価／給水原価×100
（供給単価＝給水収益／有収水量）

（給水に係る費用が、どの程度給水収益で賄えているかを表します。）

2025年度の実績は、計画を概ね達成しました。なお、前年度と比べると、給水収益が減少したことから、3.4ポイント減少しています。

【参考:2024年度類似団体平均値99.3 %】

※ 大阪狭山水道事業については、2021年４月に統合したため、経営戦略において2021年度以前の計画値を設定していないことから、2022年度から2025年度までの４か年の推移をお示ししています。